

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和5年10月号

農業用資材の価格高騰の影響を受ける農業者の皆さまを支援します
～千葉県農業用生産資材価格高騰緊急支援事業～

千葉県では、農業用資材の価格高騰の影響を受ける農業者の皆さまに給付金を交付します。申請の受付は8月30日から始まっていますので、専用ウェブサイトで詳細をご確認ください。

申請期間

令和5年8月30日(水)～令和5年12月15日(金)まで
令和5年1月1日以降に営農を開始した認定新規就農者は、令和6年1月31日(水)まで

【交付対象者】 生産性向上に取り組む農業者

- 個人事業主の場合、原則として青色申告を行っている場合が対象です。
- 直近決算における生産資材費※が20万円以上の場合が対象です。

【給付金額】

直近の決算書類における「生産資材費※」の1割
(上限20万円)

※生産資材費は、「種苗費」「農具費」「農薬衛生費」「諸材料費」となります。

申請方法

1 郵送申請



2 オンライン申請



3 説明会での申請



◆1～3のいずれかの方法で申請ができます。

【お問合せ先】 千葉県農業用生産資材支援事務局

郵送・お問合わせ先 〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-12-1 第11東ビル3階



0120-985-124

平日 10:00～19:00

※休業日：土・日・祝日、12月29日～1月3日

専用ウェブサイトURL

<https://jimukyoku.site/chiba/nogyoshien/>

千葉県 農業資材 支援

検索



野菜優良品種産地定着促進事業について

公益社団法人千葉県園芸協会
産地振興部 嘱託 角田 孝史

千葉県野菜園芸組合連合会（略称：野菜連：20 会員）では、野菜の優良品種の産地への普及を図るため、千葉県野菜品種審査会の上位入賞品種を主要産地において試作し、現地適応性を検証する「千葉県野菜優良品種産地定着促進事業」を実施しています。

1. 野菜優良品種産地定着促進事業とは

千葉県では、野菜優良品種の選定と野菜品種の品質改善を目的として、毎年、野菜の主要品目で千葉県野菜品種審査会（事務局：県生産振興課）「以下、品種審査会という。」が開催されています。

野菜連では、品種審査会の上位入賞品種を主要産地で試作し、現地適応性を検証するため、平成20年度から野菜優良品種産地定着促進事業を実施しており、これまで18産地（会員）が、ほうれんそう、だいこん、なばな、ねぎ等、延べ18品目で事業を活用しています（表1）。

2. 令和4年度の実施結果

JA八千代市人参部会では、トンネル春夏どりにんじんの主力品種を検討するため、令和3年度の品種審査会上位入賞した2品種（アロマ809、アロマ810）を供試し、収量性や品質の安定性など、栽培適応性を確認しました。

その結果、供試した2品種は根部の肥大性が良く、病害虫の発生も現行の栽培品種と同程度の有望な品種であることが認められました。今後は、産地での普及の検討に向け、引き続き試験を実施します。

3. 令和5年度の事業内容

(1) 実施主体

野菜連会員に所属する生産部会等

(2) 供試品種

第68回（令和2年度）～第70回（令和4年度）の品種審査会の入賞品種（表2）

表1 野菜優良品種産地定着促進事業の実績（過去5か年）

年度	品 目	作 型	実 施 者	品種数
H30	こかぶ	9～10月まき	松戸市園芸品出荷組合連合会	5
R1	えだまめ	8月まき	(同上)	3
R2	キャベツ	8月まき	JAきみつ	1
R3	実績なし	実績なし		
R4	にんじん	2月まき	JA八千代市	2

(3) 協力機関

一般社団法人日本種苗協会千葉県支部

(4) 実施時期

令和5年度内に栽培が開始される品目

(5) 助成額

試作に要する種子代金を定額で助成するほか、ほ場借上料及び検討会に要する費用について、1会員につき5万円を上限として助成する。

- ・種子代金：定額（予算の範囲内）
- ・ほ場借上料：1万円/1か所×3＝3万円以内
- ・検討会費：2万円以内

(6) 実績報告

事業完了後、実績報告に関係資料、写真等を添付し、野菜連宛に提出する。

(7) 申込先

野菜連事務局（公益社団法人千葉県園芸協会内）

4. 令和5年度の取組

本年度の募集地区は2地区以内、申込期間は令和6年2月末までで、募集枠に達し次第受付を終了いたします。会員及び県関係指導機関の皆様には、生産部会等へ周知をいただき、事業の積極的な活用をお願いします。

表2 令和5年度事業の供試品種

審査会 実施年度	品 目	作 型	品種 数
R2	にんじん	春夏どり	6
	とうもろこし	マルチ	6
	キャベツ	秋冬どり	5
	ほうれんそう	2月どり	7
R3	ブロッコリー	秋冬年内どり	4
	こかぶ	トンネル冬どり	3
	レタス	トンネル春どり	3
	だいこん	秋冬霜よけ	7
R4	とうもろこし	トンネル	2
	キャベツ	冬どり	5
	ほうれんそう	ハウス春どり	7



ヒートポンプを活用したイチゴ栽培燃油削減実証

千葉市 SDGs 対応型施設園芸推進協議会事務局

千葉市農政センター農業生産振興課 技師 松崎 奏

千葉市農政センターにおいて、令和4年度に国の「みどりの食料システム戦略緊急対策交付金（SDGs 対応型施設園芸確立）」を活用し、イチゴの施設栽培における燃油削減技術の実証実験を実施しましたので、その結果を紹介します。

1. はじめに

千葉市農政センターは、令和3年度に農政センターリニューアルプランを策定し、千葉市農業の発展に貢献する新たな生産モデル創出に取り組むこととしています。

また、農林水産省は「みどりの食料システム戦略」で「園芸施設については2050年までに化石燃料を使用しない施設への完全移行を目指す」という目標を設定しました。

これらを踏まえ、電気を動力源とするヒートポンプを活用した施設園芸の燃油削減実証（以下「実証」という。）として、ヒートポンプのみを活用した「オール電化加温」及び重油加温機とヒートポンプを併用した「ハイブリッド加温」の2つの加温方法でイチゴの栽培を実施しました。

2. 電化によるイチゴ栽培の実証

実証の評価は収量、加温コスト及び加温による二酸化炭素排出量の3つの観点で行いました。

(1) 収量

実証では、オール電化加温では4.9t/10a、ハイブリッド加温では4.7t/10aの収量が得られ、千葉県が示す目標収量の4.0t/10aを上回る結果となりました。

(2) 10a当たりの加温コスト（注1）

「オール電化ハウス」及び「ハイブリッドハウス」の加温コストを、重油加温機のみで加温を行う「市内生産者ハウス」及び「重油加温ハウス」の加温コストと比較しました。すべてのハウスは

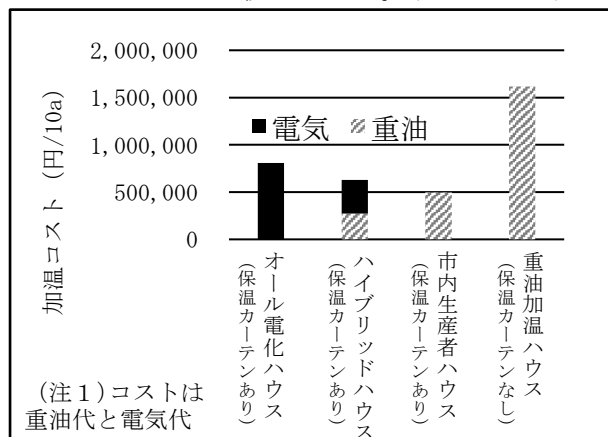


図1. 10a当たりの加温コスト

同程度の設定温度（注2）で、重油加温ハウス以外のハウスは保温カーテンを設置しています。

ヒートポンプを活用したイチゴ栽培は、重油加温機のみで加温する市内生産者ハウスよりも加温コストが高くなりました（図1）。また、オール電化ハウスはハイブリッドハウスよりも加温コストが高くなりました。これは、ヒートポンプが加温に係る運転に加え霜取り運転を行うことから稼働時間が長くなることが一因だと考えられます。

（注2）生育状態により異なるが、夜間で6～7℃、日中で18～20℃となるよう、夜間管理、早朝・日中の加温等を行った。

(3) 10a当たりの加温による二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量は、重油加温ハウスが最も多く、次いで市内生産者ハウス、ハイブリッドハウス、オール電化ハウスの順となりました（図2）。ヒートポンプを活用したことで、二酸化炭素排出量を削減することができました。

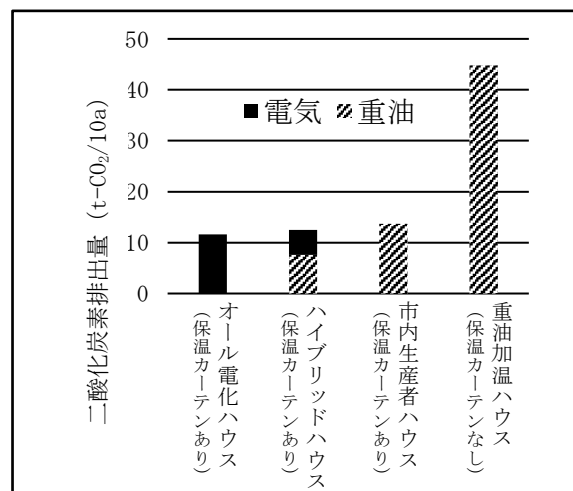


図2. 10a当たりの加温による二酸化炭素排出量

3. 今後の実証

実証では、燃油使用量の削減を目的としたヒートポンプを活用するイチゴ栽培で収量を確保でき、二酸化炭素排出量を削減できました。

今後の課題は加温コストの削減と収量性の両立です。様々な温度管理を実証し、燃油削減技術の普及に取り組んでいきます。



サトイモ疫病菌の簡易検出技術の開発

千葉県農林総合研究センター

生物工学研究室 研究員 大川 美沙

近年問題となっているサトイモ疫病について、植物体や土壌中の疫病菌の有無を調べる簡易検出技術を開発しました。本技術を用いることで、定植に用いる種芋や発病ほ場の土壌中に疫病菌が存在することが明らかになりました。

1. サトイモ疫病とは

サトイモ疫病（以下、疫病）は、茎葉が枯死して大幅に減収する病気です。2015年以降、九州を中心に発生地域が拡大し、千葉県でも2016年に確認され問題となっています。疫病は発病し始めると、蔓延が早いことが特徴です。感染した葉では遊走子嚢が形成され、この中で短時間のうちに15～20個の遊走子が作られます（図1）。雨が降ると、雨滴とともに遊走子が周囲に飛散し、健康なサトイモに次々と感染を広げます。

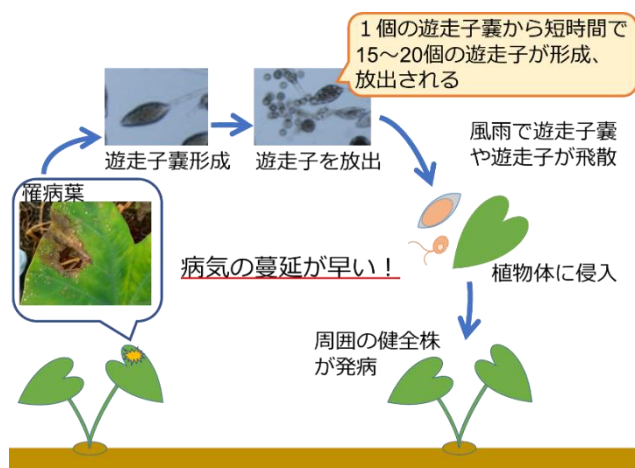


図1 サトイモ疫病に感染するまでの流れ

2. ベイト法と遺伝子診断を組み合わせた疫病菌の簡易検出技術

疫病の対策技術を確立するためには、疫病菌をほ場内に持ち込まないこと、残さないことが重要です。そのためには、疫病菌がどこからほ場に入ってくるのかを明らかにする必要があります。そこで、植物や土壌から疫病菌を効率的に検出できる簡易検出技術を開発しました。

開発した検出技術は、ベイト法と遺伝子診断を組み合わせたものです。ベイト法とは、餌で魚を釣るように、サトイモ葉を餌にして疫病菌を釣る

手法です（図2上）。サンプルの種芋や土壌を適当な容器に入れて水で満たし、葉を浮かべて数日間置きます。葉に褐変が生じたら、その部分を切り取り、疫病菌が優先して生育できる培地上に数日間置きます。菌糸が生じれば遺伝子診断（LAMP法もしくはPCR法）により、疫病菌か否かを確認します（図2下）。

実際にこの診断技術を用いて、発病ほ場から得た種芋100個と土壌から疫病菌の検出を行ったところ、種芋と土壌のいずれにも菌が存在しました。特に、種芋は収穫直後で3割、定植時でも1割に菌が存在し、発病ほ場から得た種芋が一次伝染源となる可能性が高いことが明らかになりました。

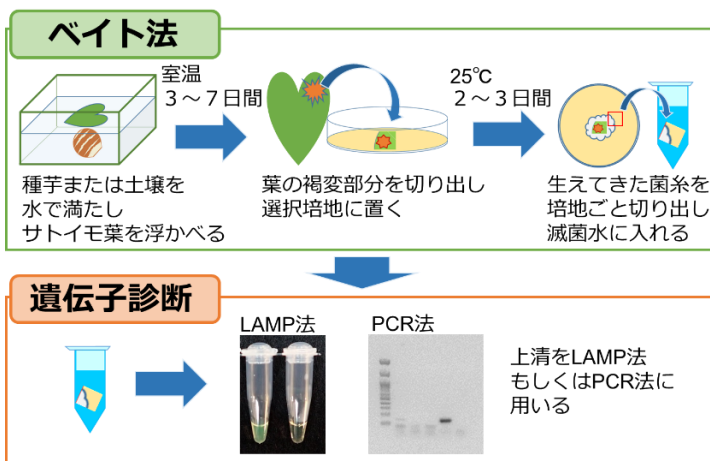


図2 サトイモ疫病菌の簡易検出の流れ

3. おわりに

簡易検出技術によって、発病ほ場由来の種芋とその土壌に疫病菌が存在するかを確認することが可能となりました。この技術を活用することで、種芋の消毒効果や土壌中の疫病菌の生存期間及び生存条件が明らかになり、効率的な防除方法の確立に繋がることが期待されています。

「黒アヒージョ」の取り組みについて

千葉県は農林水産業が盛んで、新鮮で美味しい食材がたくさんあります。そこで、若い世代に、料理を通じて千葉県の魅力を発信できないかと考え、県内の多彩な農林水産物を活用できるアヒージョに、隠し味として千葉県にゆかりのある調味料の「醤油」を加え、「黒アヒージョ」として提案していくこととしました。

初年度は、まず「黒アヒージョ」について知っていただくため、飲食店を対象に、Instagramを活用した料理コンテストを昨年12月に開催しました。県内の飲食店38店舗から、県産の様々な食材を使ったシェフのアイデア、創意工夫の40作品の応募がありました。また、県内の参加飲食店で、2月8日～3月10日まで、シェフ達が腕を振るった「黒アヒージョ」を食べられるフェアを実施し、県内の飲食店23店舗が参加しました。

令和5年度は、引き続きコンテストやフェアを行って「黒アヒージョ」の周知に取り組むとともに、新たにキャンプ場等と連携し、「黒アヒージョ」の体験イベントの開催を通してアウトドアシーンにおける「黒アヒージョ」の普及を目指します。



詳しくはこちら

黒アヒージョ
Kuro Ajillo



是非皆さんも「黒アヒージョ」を楽しんでみてください。

【問い合わせ先】

千葉県農林水産部 流通販売課
販売・輸出促進室 電話 043-223-3085

「ちばまるしえキャンペーン2023」開催！

千葉県では、県産農林水産物が多く出回る秋から冬にかけて、多くの人に県内の直売所や道の駅、収穫体験施設などを訪れていただくため、昨年度に引き続き「ちばまるしえキャンペーン」を開催します。今年度は新たに、キャンプ場やグランピング施設も参加対象施設に加われます。

キャンペーンの内容としては、対象施設2か所以上を巡って商品の購入や施設を利用したレシートを添付して応募すると、抽選で宿泊ペアチケットや県産農林水産物等が当たります。応募は、応募ハガキまたはWEBページから受け付けます。

今月リニューアルした「ちば観光ナビ」(旧まるごとe!ちば)内のキャンペーンページでは応募フォームの他、参加施設や賞品紹介をしていますので、是非御覧ください。

たくさんの御応募をお待ちしております。

【期間】

令和5年10月21日(土)～令和6年1月31日(水)

【問い合わせ先】

千葉県農林水産部 流通販売課
農業ビジネス推進班 電話 043-223-2889

※詳細については、「ちばまるしえキャンペーン2023」で検索！

千葉県立農業大学校の学園祭 第44回「社稷祭」を開催

令和5年11月11日(土) 9時～14時 「社稷祭」を開催します。

本年は、新型コロナウイルス感染症による自粛前の規模並みの開催を目標に、本校農場にて生産した農畜産物の即売をはじめ、芋掘り体験(有料)、山羊ふれあいコーナー、昆虫展などを実施します。

御来場いただいた皆様に喜んでもらえるよう、学生は丹精込めて作物、野菜、果樹、花きなどの栽培及び加工品の生産に励んでいます。

また、学生の取り組んでいる研究内容等については、各専攻教室にてパネルを作成し、展示する予定です。栽培技術から農大で開発した新技術の研究まで、多岐にわたる研究テーマについて御覧いただけます。

是非とも、お誘いあわせの上、御来場いただければ幸いです。

【開催場所】千葉県立農業大学校
〒283-0001 東金市家之子 1059

【問い合わせ先】TEL: 0475-52-5121

【千葉農大ホームページ】

<https://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>



※詳しくはこちら



※昨年の様子

第48回千葉県植木共進会

マキやマツなどの大型造形樹や家庭で手軽に楽しめる

鉢植木などの展示・即売を行います。

国内外に誇る本県の植木を是非御覧ください。

【開催日】令和5年10月28日(土)～29日(日)

【開催場所】株式会社八日市場植木センター(匝瑳市平木 3916)



前回(第47回)農林水産大臣賞受賞のクロマツ

【実施内容(予定)】

- ・品評会出品物の即売会
- ・庭木に関する相談コーナー
- ・苗木のプレゼント

【問い合わせ先】

千葉県農林水産部
生産振興課 園芸振興室
電話 043-223-2871